

西部地区(水産)プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成26年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H26目標	H26実績	達成率
西部-1	大田地区漁業・流通機能の再編整備プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・資源回復計画に基づく漁業者の取り組みが定着するとともに、直巻きリールを導入した小底のモデル漁船の実操業により、小底の漁業者が省人化の効果について実感されている。 ・市場統合による荷(水産物)の一元化や大手量販店を初めとした新規買受人の参入により統合後の魚価について、改善傾向が見られるが、減船による漁獲量の減少の影響も考えられることから、引き続きデータ収集と長いスパンでの要因の精査を行う必要がある。 	小底1ヶ統あたりの水揚金額(漁期年)(百万円)	39	39	100%
		<ul style="list-style-type: none"> ・統合市場の開設(平成25年9月)から1年が経過し、日々の集荷や販売活動については、概ね定着したと考えられるが、衛生管理型市場の適切な運用や管理が可能となるよう、今後も定期的なチェックが必要である。 ・新たな冷凍技術による業務用商品が開発されつつあり、そのメリットを地域内外にPRすることで、新たな需要の掘り起こしを継続すると共に、地域の魚商人組合とJPが連携して地産地消に取り組むための枠組みを作ることが出来た。 	大田地区市場における水産物の平均単価(円/kg)	380	417	110%
西部-2	浜田地域水産業構造改革推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度に船体の大規模改修(リシップ)工事を実施した沖合底びき網漁船1ヶ統が、平成25年4月から2年間の国の実証事業を実施した。アカムツの資源管理や省コスト操業の導入試験を行ない、リシップ船による効率的操業の確立及び経営改善のための知見が得られた。今年度は新たに沖合底びき網漁船2ヶ統が県・市の実証事業を開始した。 ・リシップ工事により、1漁期終了後の船体メンテナンス作業において、修繕費削減の効果が確認された。 	沖底1ヶ統あたり水揚金額(百万円)	310	287	93%
		<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から取り組んでいるリシップ船による漁獲物高鮮度化について、1漁期が経過した時点の課題を整理し、平成25年8月から新たな高鮮度商品の出荷・販売を開始した。平成26年8月からはこの商品の規格の見直しを行い、生食用に特化した商品とした。この商品について市内飲食店等を対象とした試食会やサンプル提供を実施し、需要の拡大を図った。 ・どんちっち三魚のうち、ブランド力の弱いカレイ類について、成分分析等を行う取り組みにより、商品ブランド確立のための優位な知見が得られた。高品質塩干品生産技術の普及と併せてムシガレイの生食利用を主体としての需要拡大に取り組む中。商品価値の向上が期待される。 ・浜田水産高校で地元水産関連企業における職場実習や課外授業が行なわれ、生徒が地元水産業に関わる多数の機会が設けられた。 	水産高校からの地元水産関連企業への就職者数(人)	10	11	110%
西部-3	天然アユが復活する石見の豊かな川づくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協が主体となった産卵親魚の保護や産卵環境の整備等、天然遡上アユを増やす取り組みについては、ほぼ定着しつつあるが、アユの産卵に適した小砂利が不足するなど、河川環境の改善が大きな課題となっている。 ・高津川では今までの懸案であった4カ所の魚道整備に着手した。 	地場産種苗の生産尾数(万尾)	350	380	109%
		<ul style="list-style-type: none"> ・今シーズンも、地場産アユの放流については、計画通り実施されたが、天然遡上が伸び悩んだため、各河川におけるアユ漁獲量も低調に推移した。 	流下仔魚数(高津川)(億尾)	35	4.5	13%
		<ul style="list-style-type: none"> ・高津川においては、産卵場の整備や地場産アユの放流などに取り組んでいるが、平成25年以降は天然アユ資源量の指標である流下仔魚数が年々減少している状況にある。このため、天然アユの資源管理手法について再検討が必要となっている。 	流下仔魚数(江の川)(億尾)	15	16.6	111%